

立夏の自然と博物館

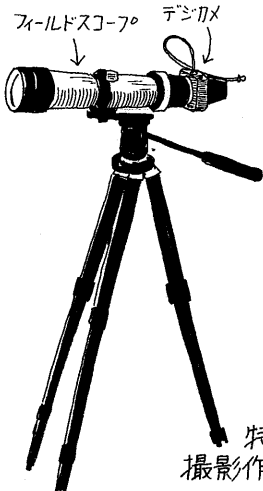


玄関とロビーのお花

博物館の玄関とロビーには、いつも季節の花が飾られています。これは学術委員の山田由乃先生や友の会役員の丸山潤次郎さんが絶えず、花の咲いている植物を展示してくれるからです。お客さんに最初に目にとまり、野外で咲いていた花が何であったのか、その場で確かめられます。今はウツギ、ノアサミ、コアシサイ、エキノシタなどがおでむかえしています。

デジスコ倶楽部と講習会

(平成17年5月8日 13名参加)



デジスコとは、フィールドスコープにデジタルカメラを取りつけて、超望遠撮影ができてしまう技術と機材のことです。友の会役員の長谷川博さんが2年ほど前からはじめ、今年からデジスコ倶楽部を立ちあげました。この日、第1回目の講座を開催しました。すでにシステムをそそえている人、これから挑戦しようと考えているメンバーが集いました。今後と講習会を続け、うでをみかいて、秋の友の会30周年特別展「みんなでつくる博物館」へ撮影作品の展覧をめざしています。

雨よ降り！モリアオガエルのさけび声 (平成17年5月23日 はれ)

今年の鳳来寺山でのモリアオガエルの初産卵は5月19日でした。冷涼な気温と晴天つづきで、例年より大巾に遅くなりました。

この日も朝から晴れ。館前のハナキも陽光を受けて輝いていました。

しかし、よく見ると変な動きをする葉があります。目をこらすと産卵途中のモリアオガエルが自分の卵のアワに足をどろ

れて、ぶらさがってまかいています。産卵のさいちゅうに卵塊が乾いてしまい、脱出できなくなってしまったようです。

モリアオガエルは、通常雨の降る夜に産卵します。

あまりに雨がないために、たまらず卵を産みはじめてこんな目にあってしまいました。

…職員が無事救出しました。

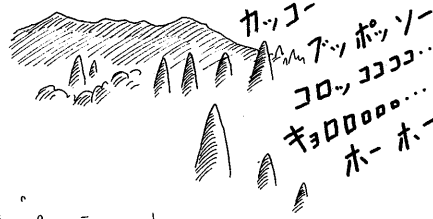


セツブンソウの種まき

(平成17年5月7日)



博物館の中庭をセツブンソウの花園にしたい(N6.82参照)と、山田由乃先生が播種をしてくださいました。池場の金田和三さんから貴重な種子を分けていただいたものです。生育に適した環境をつくるために、梅の樹を植えたり、寒紗をかけて、成長を見守っていきます。



鳳来町の自然情報

博物館には、地域のみなさんからたくさんの情報をよせていただいています。5月分を記録すると…

- 5月3日 引地でアオバズク(正木さん)
- 8日 仏坂でコハズク(小山さん)
- 四谷でハルシメジ(真目さん)
- 11日 池場でコハズク(伊藤さん)
- 四谷でアカショウビン(原田さん)
- 16日 門谷でヒメハルシメジ(日比野さん)
- 19日 門谷でモリアオガエル初産卵(丸山)
- 21日 門谷でカッコウ(日々野さん)
- 大草でガンシボドリ(野々村さん)

コハズク情報 多数

こうした皆さんの情報は、館の活動のエネルギーになります。できるだけ向ういて確認するようにしています。これからも様々な自然の情報をお待ちしています。



学習会「モリアオガエルや春の生きものをさがそう」

(平成17年5月29日 是れ 64名参加)



ヘトボトリン

鳳来寺山での観察会から帰ってくる、学習会で7種類の「ヘビ」が待っていて、迎えてくれました。どれも生きています。小椋会長がこの日の為に準備してくれたものです。小椋さんの解説は「ヘビへの愛情」が伝わってきました。

はくぶつかなだより No.101 2005.5

鳳来寺山の仏法僧・ラジオ放送70周年! (平成17年5月21日～8月末日)



昭和10年6月7-8日は、鳳来寺山で仏法僧の鳴き声が全国に放送された日です。今年で70周年です。

館ではコハズクコーナーで、鳳来寺山の仏法僧の歴史や生態を紹介するパネル展示をしています。

また、ロビーでは博物館で撮影に成功した、コハズクの鳴いている姿を放映しています。

他では絶体に見られない貴重な映像です。この機会をおみのがしなく。

博物館ツアー開始

(平成17年5月11日)

博物館の見学と野外観察を1パックにしたツアーで、今年度から始めました。

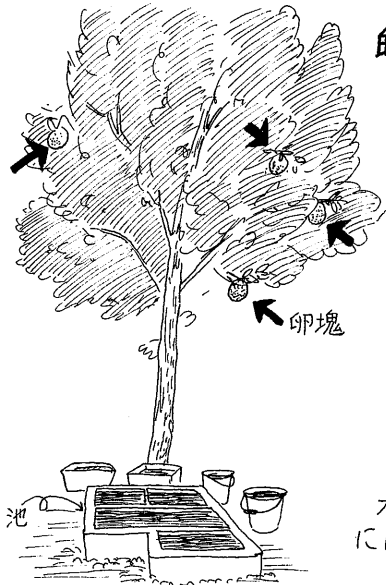
その第1号は静岡の三ヶ日中学校のみなさん(18名)でした。新聞社の取材もあり、順調なすべり出しとなりました。館と鳳来寺山のすばらしさが伝われ「うれしい」です。

新たな気持ちで

“はくぶつかなだより”が100回目を迎えたところ、おおせいの方からお祝いや「はくぶつかなだより」のメッセージをちょうだいしました。これからはがんばって、続けていこうと思います。



梅雨の季節と博物館



的はずれなモリアオガエル (平成17年6月)

今年の入梅は6月11日でした。でも雨はあまり降りません。

博物館のモリアオガエルも調子が狂ってしまったのか、本来は池の真上に産卵するはずを、ずれた枝に卵を産む親が何匹も現れました。

このままだと卵からかえったオタマシヅクが地上に落ちてしまいます。

かわいそうに思い、職員が雨とりならぬオタマ受けのバケツをあちこちに置いて、水をはってやりました。

標本資料活躍中

当館の収蔵資料が各地の博物館に貸し出されて、展示に活躍しています。

- 鳥居植物標本と鳥刺製 (渥美町郷土資料館「渥美半島の自然」)
- 鳥居植物標本とコハズク写真 (豊橋市自然史博物館「よみがえれ! 愛知のいきものたち」)
- コハズクとフッポウソウの刺製 (NHK名古屋開局80周年記念展)
- 金鉱石と金すり石 (名古屋市科学館「ゴ-ゴ-ゴールド展」)
- 写真類 (複数館、施設など)



鳳来町・東浦町議員交流研修 (平成17年6月22日 35名)

姉妹交流をしている東浦町と本町の議員さんの研修で、博物館を視察してくれました。

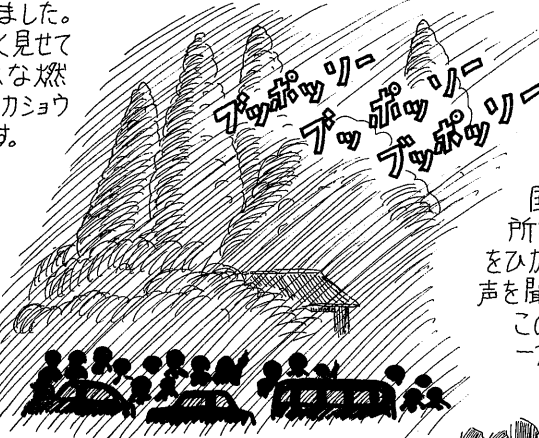
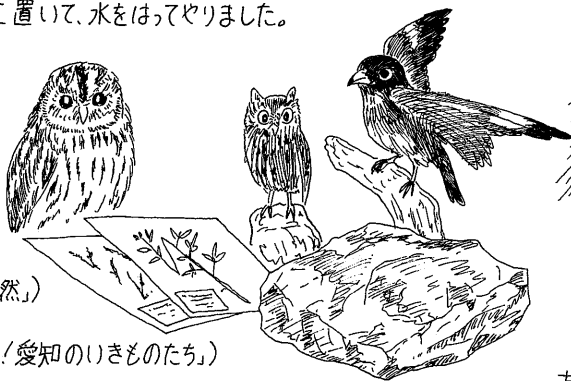
内外の改修工事を終えた後で、きれいになった館を見学してもらうことができました。



アカショウビン (平成17年6月25日)

この日の朝から、門谷の谷にきれいな鳴き声が響いていました。夕方には博物館を一周するように裏の山から声が聞こえてきました。

しかし、姿は全く見せてくれません。真赤な燃えるような色をしたアカショウビンに会ってみたいのです。



梅雨期のきのこ観察会 (平成17年6月26日、はれ)

友の会員のための観察会です。これに参加したくて入会する人もいるほどです。今回は67人が出席しました。

雨が少なく、乾燥していましたが、ヒタがピンク色のタマゴテンクダケモドキ(別名アカハテンクダケ)と傘のまわりにも毛が生えたようなアシボソチチタケ、色の変異が多いカワリハツなどが発生していました。



アシボソチチタケ

タマゴテンクダケモドキ

フッポウソウに会っちゃった! (平成17年6月8日)

長い間「仏法僧」とまちがえられていた姿のフッポウソウに会うことができました。

愛知県では、コハズクよりも生息数が少なく、絶滅の危機に瀕している鳥です。

フッポウソウとコハズクは、鳳来寺山にとって切っても切れない鳥ですが、フッポウソウは、これが初めての出会いでした。



長野県にて

コハズク鳴き止め (平成17年6月27日)

初めて連絡を受けたのは、5月11日でした。池場の集落付近で明瞭な声で鳴いているとのことでした。確認に向くと、それはすばらしい鳴き声でした。

国道沿いで、しかも民家周辺。信じられないような場所です。広報や新聞社も鳥への影響を配慮して、公表をひかえていましたが、うねさの広がるのは早いもので、鳴き声を聞く人で連日の大にきわいとなりました。

この日を境に声は途絶え、鳥も人もいなくなりました。一方、鳳来寺山では、今年も声が聞かれませんでした。

巣箱とアオダイショウ (平成17年6月19日)

昨年の学習会で作った巣箱の一つが、館の前のハナキに掛けてあります。

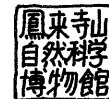
本来なら今頃、シジュウカラなどが営巣しているはずですが、今年はそのどくだみで、いっこうに営巣しようとしません。

この日も巣箱を観察していると、アオダイショウの幼蛇が気持ちよさそうに横たわっていました。これでは誰も近づきません。



出前講座 (平成17年6月16日)

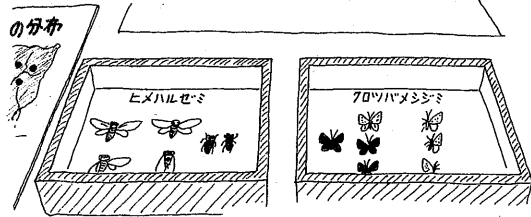
この日館長は黄柳野高校の一日理科の講義、学芸員は一宮町東部小学校の県民の森観察会へと、それぞれ講師に出かけました。ここ数年で、こうした出張しての講座が増えてきました。豊かな自然を持つ鳳来町は、自然を現地で学べるすばらしい町です。



博物館の夏



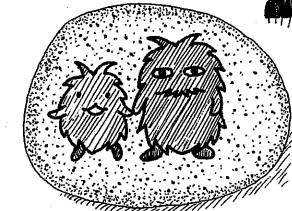
特別展追加展示「奥三河の自然博物館」
(平成17年7月)



3月25日から始めた今年度の特別展は、夏休み用に内容を追加しました。これまでの鉱物展示に加え、動物と植物に関する、この地方の天然記念物や、それに準ずる自然を紹介するものです。奥三河、特に鳳来町にいかにかかりかかわります。

ほうらい西・田舎おもしろ体験
(平成17年7月16~17日、はれ)

愛知万博地域連携プロジェクト事業の豊川流域サマーフェスティバルが布里の寒狭川と四谷千枚田でおこなわれました。これには当館学術委員の西本先生、小山先生、友の会長の小沢京さん、学芸員が協力しました。水生生物調査やナイトウォッチング、魚つり、早朝観察会、ストーンアートなど、二日間にわたってのお手伝いでした。



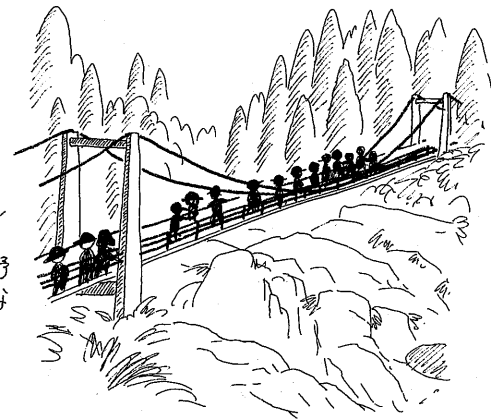
愛知万博会場菌類調査
(平成17年7月30日)

会場内に発生するきのこを食べる事故があっては大変です。そこで愛知万博食品環境監視センターの要請で、会場内の野生きのこの発生状況調査を行いました。鳳来きのこ倶楽部の5名と調べた結果、この日は23種(不明6種)が発生していました。そのうち10種が有毒菌でした。



好評！博物館ツアー
(平成17年7月27日)

今年度から始めましたが、少しずつ利用されはじまりました。これで3回目です。館の見学と野外ガイドとテキスト付きのお得なパックです。6月は豊橋市立賀茂小学校、今回は東蒲町立緒川小学校がツアーに参加してくれました。

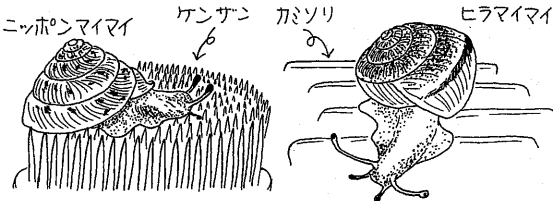


野外学習会「奥三河の地質と鉱物」
(平成17年7月31日、はれ、53名参加)

定員の2倍を超える申し込みで、人気の学習会でした。今回は東栄町が主なコースです。煮え洲、預り洲の見事なポットホール群、下田の貝化石、東栄町博物館の見学、三信鉱工での鉱物採集、と盛りだくさんでした。シラトリガイの貝化石に歓声があがり、鉱山へ向かう林道は、黄鉄鉱や硫砒鉄鉱の結晶がきらめいて、宝の山へ向かっているようでした。

「カタツムリとあそぼう」子ども自然講座
(平成17年7月24日、はれ、6名参加)

はじめに博物館のまわりで、カタツムリ(陸貝)をさがすことにしました。落ち葉の下や朽ち木をたんねんに見ていくと、オオケマイマイ、ニッポンマイマイ、ツムガタキセル、オコベソマイマイ、ヤマタマシ、シメクチマイマイ、ヒダリマキゴマガイの8種がいました。講師は原田一夫先生です。午後はカタツムリの観察です。体のつくりや特徴を調べました。カミソリの刃やケンサンの針の上をはねせましたが、全然へちゃちゃで渡っていきます。長い棒にとまらせると、必ず上へ移動していきます。今まで知らなかった陸貝の習性を知ることができました。

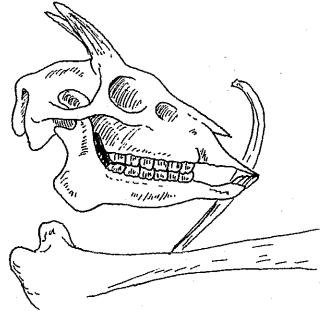


はつたどり 16.103
2005.7

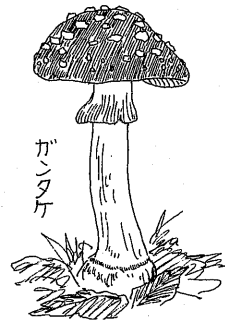
「骨から進化を学ぶ」(平成17年7月23日、5名参加)

“先生のための自然と博物館利用講座”の第1回目です。骨を調べることで、生物の進化の歴史がわかるのだそうです。

古生物の研究で活躍されている河村善也先生を講師に、実物の骨や化石を使って、専門的な内容をわかりやすく講義してもらいました。



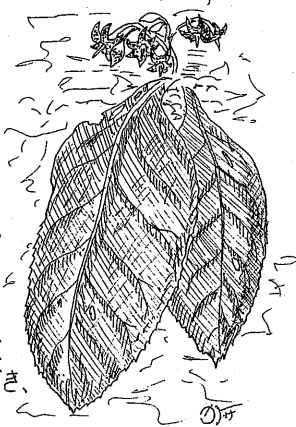
夏のきのこ観察授業(平成17年7月14日)



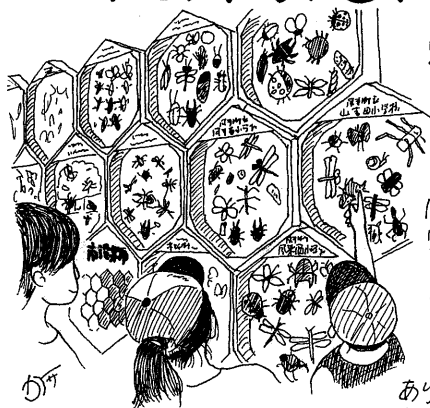
作手村立菅守小学校の5・6年生は総合学習で、きのこを調べています。この学校の裏山は、みことな雑木林で、きのこの宝庫です。この日は、ヨコレキアミアシグナなどのイワタケ類、ベニタケ類、ガンタケなどのテンクダケ類等、夏のきのこが多数顔を出していました。

イワタバコの花
(平成17年7月29日)

塩瀬の筒井さんがイワタバコの株をとどけてくれました。町内で掘り盗られ、持ち去ろうとした人から、没収した株だったのです。阿寺の七滝など、貴重な群生地が町内各地にあります。こうした自然をあらゆる手からはゆるしてはいけません。どこかで売られるか、枯らしてしまう運命のイワタバコでしたが、博物館裏手の湿った岩場で根づき、花を咲かせはじめました。



夏休みと博物館



愛知万博瀬戸会場 (平成17年8月3日)

万博の瀬戸会場に行ってきました。愛知県ハピリオン“森の回廊”には、県内の小中学生が製作した、リサイクル品による動物たちが、六角形のケースに配置され、壁一面に展示されていました。南設楽郡のコーナーには、鳳来町全校の作品がみごとに展示してありました。昨年、いっしょうけんめい取り組んだ成果ですネ(Nb.94参照)。

また、同館では鳳来寺町の足木勇さんにも会っちゃいました。“自然と暮らしの暦”のコーナーで展示紹介されていました。とてもうれしい瀬戸愛知県館の展示でした。

友の会サミット2005 (平成17年8月13・14日)

大阪市自然史博物館で“自然を楽しむ博物館づくり-自然史博物館友の会サミット2005”がありました。当館友の会役員の小原、竹之内、深見さんら4人と学芸員で参加しました。関西各地の友の会のブース展示や、活動自慢、ミュージアムショップミーティング、友の会と博物館の関係、会報、友の会の可能性に関する分科会に出席。たくさんの情報と刺激をいただくことができました。懇親会では、小原会長が鳳来寺山自然科学博物館と友の会について、おおいにアピールし、拍手がっさいでした。

子ども自然講座「石器づくりと原石さがし」 (平成17年8月20日、30名参加、講師:館長)



門谷の高徳の沢に入って、石器に適した石(松脂岩)をさがしました。でも実際に割ってみると、なかなかうまくいきません。次にあらかじめ採ってあった棚山の松脂岩を使うと、うすきれいに割れ、さらにフギで細かく磨くにつけてと切れ味がぐんとよくなりました。野菜で実験するとできばえがよくわかりました。



子ども自然講座「摘み草あそび」 (平成17年8月27日、7名参加)



山田由乃先生の講師でおこないました。午前中は植物観察と摘み草。午後は採集した草花で、草木ぞめの実験やシソジュース、寒天ゼリーを作って試食もしました。たのしくて、おいしい講座でした。

夏休みの人気者たち



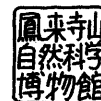
博物館は夏休み期間中、無休で開館しています。そして、身近な生き物やケガで運ばれたフクロウ類を飼養しています。彼らは剥製とちがって、生きているので注目されます。はじめは隠れてはかりたいマヌエミと近ごろは人慣れたのが、つぶらな瞳でエサを食べます(Nb.99参照)。ニホンシカメも3匹に増えて大・小亀がぞういました。ヘビは本州に生息する8種のうち、7種がいます。ペットボトルのアパートぐらしです。恐いけど見たい、気持ち悪いけど見てみたい人たちが、人たかりができます。ふだん身近でくらししている動物たちですが、こんなま近で見るとはめったにありません。透明のボトル越しに至近距離から視るヘビたちは、意外とかわいく、美しいことわかりました。

「魚のしらべ方」講座 (平成17年8月6日、6名参加)

“先生のための自然と博物館利用講座”の動物分野。今回は魚がテーマでした。堀正和先生が講師となり、音為川の魚を実際に採集しました。採集した魚は水槽で観察。標本はスケッチをして、それぞれの特徴をじっくり観察しました。



はぴっかだより 16.104 2005.8



「鳳来寺参道沿いの植物」講座 (平成17年8月23日、17名参加)

“先生のための自然と博物館利用講座”の植物編。三津井宏先生が講師で、町内外の学校の教師が参加してくれました。参道沿いによく目にとまる植物を中心に、観察や指導の方法などについて、実践的な講座でした。また、三津井先生が得意の竹笛も披露され、関心が集まっていました。

中学生の職場体験(鳳来中学校2年生)

8月4日~10日まで、中学生が博物館の職場体験にやってきました。2班に分かれて、3日間づつでした。販売標本用の岩石割り、館内外の清掃、野外観察会の同行など、博物館の仕事のほんの一部ですが、体験してもらいました。長迫、荻野、岡、橋本、長谷川、生田、高柳くんら7人は、館で何を感じとってくれたでしょう。



教員の博物館研修

黄柳野小学校の松山教諭(3日間)と、鳳来寺高校の鈴木教諭(2日間)が、職場研修で博物館の仕事を体験しました。まずは毎朝、職員全員で行なっている館内そうじです。次に展示解説作りや、保護動物のせわ、講座の助手などです。今後、博物館を活用してもらうためにも、理解を深めてもらえればうれしいです。

おかげさまで友の会30周年 《会員800人突破記念号》

はぴなだより 16.105
2005.9

鳳来寺山自然科学博物館が昭和38年に開館し、10年が経過した頃、館の新たな活性化のために「博物館友の会」の導入が検討されました。昭和49年には、会則の原案が作られ、翌年、さらに修正を加えて、昭和51年4月に「鳳来寺山自然科学博物館友の会」が誕生しました。会員数75人のささやかな船出でした。

当館の友の会は「郷土の自然を楽しく研究し、自然科学の普及発展に寄与すると共に、会員相互の親睦をはかる」ことが目的です。

自然が好きで、学ぶ意欲のある人ならば、年齢や性別、肩書、住んでいる地域などに関係なく、誰でも会員になります。

近ごろは会員数が増えましたが、今でも家族的な雰囲気は変わりません。いつも、こどもの声にぎやかな、和気あいあいのあたたかい会です。

平成15年には、友の会の中にボランティアグループ「博物館協力隊」が結成され、博物館と友の会がかつよく手を組む体制もできつつあります。

山の中の小さな町立博物館で、4人のスタッフで運営している現場にとって、この友の会は、館のよき理解者であると同時に、よきパートナーであり、強力な応援団です。

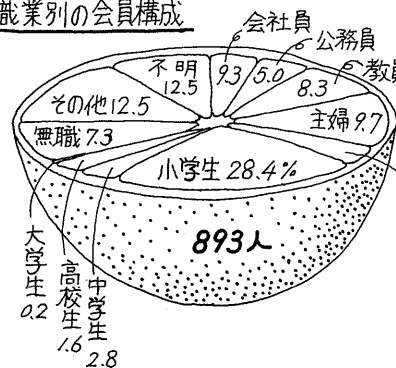
800人を超す会員が、この館を見守り支えていてくれると思うと、心強く、感謝の気持ちがあふれてきます。

これから友の会を大切に、館と手をとって歩みを進めていきたいと思ひます。

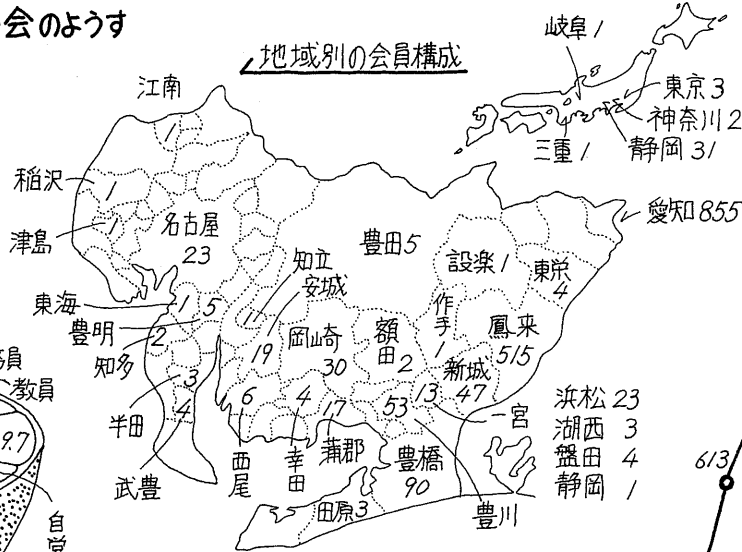
平成17年度 博物館友の会のようす

30周年を迎え、会員数が初めて800人を突破しました。8月末時点で893人です。町内小学校での親子、そして先生方のゴルフ入会のおかげです。10月には新市が生まれます。新たな発展をめざし、30周年記念行事を開催します。

職業別の会員構成

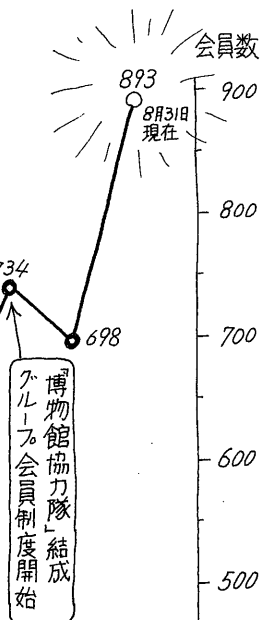


地域別の会員構成



愛知県内各地、他県にもおあせいの会員がいます。

累計 8,244人



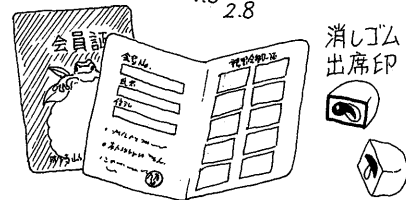
8月31日現在 会員数 893

博物館協力隊「結成」開始

ゴルフ会員の会費
~20名 5,000円
21~50名 8,000円
51~99名 10,000円

友の会25周年記念式開催

記念すべき
800人目は山吉田
小学校G会員の
牧野栄司さんでした。



会費改訂 おとな1,000円
こども700円
家族3,000円

会費改訂 おとな1,000円
こども600円

家族会員制度開始

学習会参加証付
会員証に変更

会員表彰(精励賞)開始

友の会役員選挙
第1回友の会総会開催

会報「はぴなだより」創刊

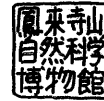


会員証と粗品を進呈

鳳来寺山自然科学博物館友の会設立
会費600円でスタート

昭和51 (1976) 52 53 54 55 56 57 58 59 60 61 62 63 平成1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 年度 (2005)

鳳来寺山自然科学博物館の歩み 《合併特別号》



はぶつきたり No.106 2005.10

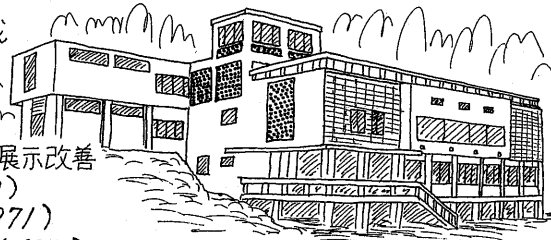
昭和38(1963)年4月26日開館
39(1964)

鳳来寺山自然科学博物館の誕生

← 40(1965) 地質園完成
コリハズク 41(1966)
愛知県の鳥
に選ばれる



42(1967)
43(1968)
44(1969) 展示改善
45(1970)
46(1971)
47(1972)
資料目録1号発行 48(1973) 10周年 植物標本庫完成
(館報第1号発行
足跡化石展示 49(1974) 鳥居喜一採集・植物標本受入
50(1975)



自然研究の拠点として、熱望されていた博物館が、元村長で林業家の丸山喜兵衛氏の寄付により、実現されました。当時に1千万円もの金額です。

日本初の二重展示方式をとり入れ、町立の自然科学博物館としては、全国的にも希な画期的なできごとでした。

学術委員、運営審議会を設置し活動体制を整え、開館当初から野外学習や特別展などを活発に展開していきました。

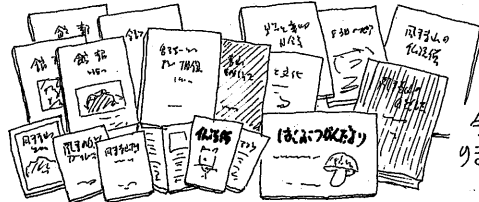
この年(昭和38)、愛知県地区博物館連絡協議会<昭和42年から愛知県博物館協会>が発足しました。当館をはじめ11館での出発でした。

現在は132館が加盟する国内有数の協会となっています。平成4年からは理事館として、協会のお手伝いもしています。

教育普及・展示活動

調査研究・執筆出版活動

田口鉄道自然科学博物館の頃から発行を続けてきた「鳳来寺山概説」1~10巻、資料目録、見学の手引、「鳳来寺山自然と文化」等の記念誌、普及啓蒙誌、「はぶつきたり」かんたより、館報1~34号、「鳳来の自然 観察ガイドブック」などなど、鳳来寺山そして鳳来町及び東三河の自然について、調査研究の成果を記録し、公表しています。



55(1980) 分類展示改善
56(1981)

57(1982) 生態展示改善

58(1983) 20周年 学習室・図書館増設工事

59(1984)

60(1985) 鳳来寺山のコリハズク鳴き声途絶える

61(1986)

62(1987) 展示改善(岩石、野鳥、木の利用)

63(1988) 展示改善(パネル類)

平成1(1989) 展示改善(カタツムリ他)

2(1990)

3(1991) 展示改善(ユリキリコ)

4(1992) 第1回仏法僧シンポジウム開催

5(1993) 30周年「鳳来寺山の自然誌」発行

6(1994) 第2回仏法僧シンポジウム開催

7(1995)

8(1996) 中央構造線のレプリカ展示

9(1997)

10(1998) 博物館ホームページ開設

11(1999) 「町ごと屋根のない博物館シンポジウム」開催

12(2000) 鳳来寺山で15年ぶりにコリハズクが鳴く

13(2001)

14(2002) 子ども自然講座、先生のための講座開始

長篠向林に現れた 15(2003) 40周年 耐震補強・外部改修工事

中央構造線の露頭 16(2004) 内部改修工事

17(2005) 友の会30周年、会員数800名到達

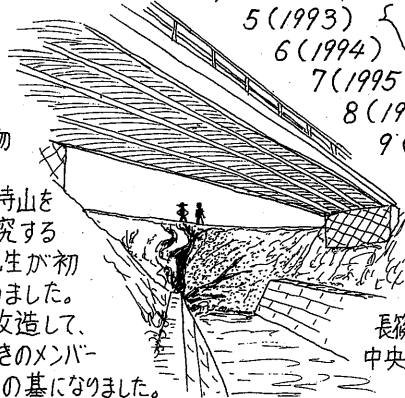
博物館友の会

昭和51年に75名でスタートした友の会は、今年で30周年。800名を越す会員組織になりました。全国に自慢できるすばらしい会です。

「東三河の地質と鉱物の会」と田口鉄道自然科学博物館



昭和24年9月、鳳来寺山麓にある鳳来寺高校で、「東三河の地質と鉱物の会」が結成されました。国指定名勝天然記念物の鳳来寺山を中心に、自然の宝庫である東三河を研究する人たちが結集しました。柿原喜多朗先生が初代会長となり、熱心に活動がはじまりました。そして、田口鉄道鳳来寺駅の公舎を改造して、同年に博物館を開館させました。このときのメンバーと小屋のように小さな博物館が、後の鳳来寺山自然科学博物館誕生の基になりました。



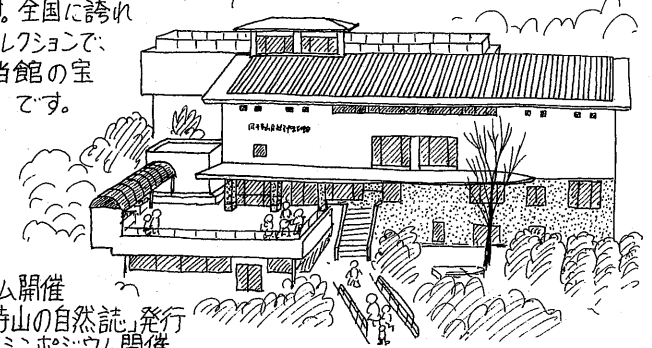
収集保存活動



腊葉標本

鳥居喜一先生が昭和初期から平成5年まで、生涯にわたって東三河で採集された4万3千点に及ぶ植物標本を収集しています。全国に誇れるコレクションで、当館の宝です。

リニューアル オープン



平成16年2月29日、大規模改修工事を終え、新装開館しました。

きのこ秋の博物館

きのこ展(平成17年10月1日~10月23日)

きのこ展

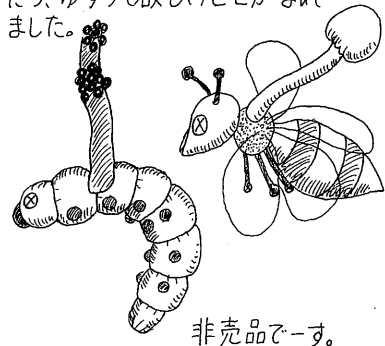


今年は何年かの1/3ほどの開催期間でした。おまけにその間は雨が少なく、乾燥していたせい、きのこの発生がおもむくありませんでした。しかし、今回の展示では、豊橋で中毒事故があったニセクロバツタ、豊田の木村さん(三河きのこ会)や、友の会の山崎さんのきのこグッズで展示がとてものにきまかになりました。また、会場内に、きのこの妖精が舞う「顔はの看板」も設置しました。友の会の深見さん夫妻と職員(森下)の力作です。展示終了後もDビに設置し利用可能です。ご来館の際には、ぜひ顔はのめ写真の記念撮影をどうぞ。

冬虫夏草のぬいぐるみ登場

(平成17年9月18日)

きのこ展用のパネルとグッズを豊田市の木村修司さんがとどけてくれました。その中にハチタケとコマツキムシタケのぬいぐるみがありました。娘さんの作で、すばらしいできばえです。見学者に売っている所をたずねられたり、ゆずって欲しいとせがまれました。



非売品です。

「きのこを調べよう」野外学習会

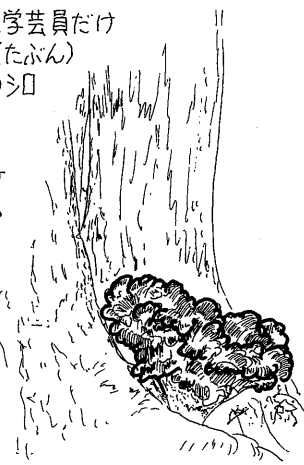
(平成17年10月9日 8時 58名参加)



長篠の医王寺山で実施しました。たくさん目で見ると、やはりたくさん種類が集まります。午前中の観察と採集を終え、医王寺の境内にきのこを並べると、92種の名前がつかえました。タマシロオオタケやフクロツルタケといった猛毒菌から、オオコムタケなどの一風変わった食菌まで、見ることができました。

ひみつのシロ(平成17年10月17日)

横山館長と学芸員だけしか知らない(たぶん)秘密のきのこのシロがあります。市内では発生がまれなマイタケの出る場所です。近くには、バカマツタケやチチタケも出ます。秋のきのこシーズンになると毎年館長がのぞく楽しみなスポットです。



きのこ相談

今シーズンは、暑さと乾燥が続いたため、秋のきのこがなかなか現れませんでした。きのこ相談も例年よりも少なめでした。しかし、10月末のきのこ展終了まぎわになって、続々と持ち込まれるようになりました。

それも、これまであまりお目にかかれなかったきのこたちが多く持ち込まれました。ホンシメジやロウジなどの特級のきのこです。一度ならず何度も各所で採集されたものを見ることができました。

はづかだり 16.107 2005.10



ホンシメジ

きのこの観察会ときのこ講座

- きのこフォームなのか、最近、きのこ観察会やお話の要請が多くなってきました。
- 10月1日「親子ふれあい教室 in 吉祥山」きのこ観察会 豊橋市農政課
 - 10月15日「きのこ観察と採集、きのこ展見学」東浦町こども教室
 - 10月15日「森の集い」きのこ観察会 愛知県民の森
 - 10月16日「きのこ観察と勉強会」武豊町中央公民館
 - 10月20日「きのこを学ぶ会」黄柳野小学校
 - 10月22日「きのこ観察会」新城市環境課市民環境講座
 - 10月26日「きのこ狩りを楽しむ会」鳳来寺小学校
 - 10月29日「新城地方のきのこ」ちさと文化講座
- 今年は県内や全国各地で、きのこ中毒が多発しました。きのこ狩りは秋の楽しみのひとつですが、食用にする際には、迷信などにたよらない、正しい知識が必要です。

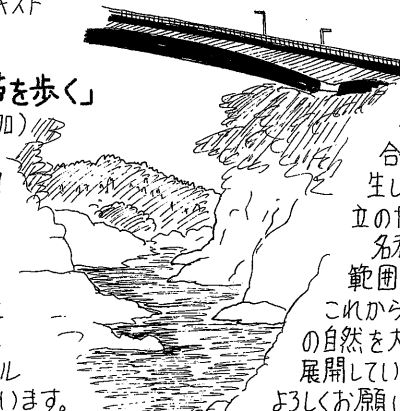


きのこのテキスト

館長と歩く自然シリーズ「領家帯を歩く」

(平成17年9月17日 日 44名参加)

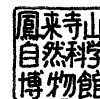
人気の友の会行事で、今年で5回目です。今回は出立で、錦砂川の沿いの由来と蛭石の採集。鮎滝と新城石英閃緑岩の観察をしました。蛭石は風化した雲母の劈開面に水がしみ込んだもので、火などで熱すると、アコーディオンのように伸びて、ヒルを連想します。それでこんな名がついています。



新城市立博物館

(平成17年10月1日)

作手村、鳳来町、新城市が合併し、新しい「新城市」が誕生しました。それに併し当館も市立の博物館となりました。名称は今までとおりです。守備範囲は大きくひろがりましたが、これからはもと(郷土)の自然を大切に、し、活動を展開していきます。今後ともよろしくお祈りします。



祝 博物館友の会30周年



鳳来寺山自然科学博物館友の会30周年記念式典 (平成17年11月6日・日よう・くもりのち雨 65名参加)



昭和51年に発足した博物館友の会が30周年を迎え、この日記念式典が盛大に、楽しく開催されました。

第I部の式典では、小原会長のあいさつ、横山館長のお祝いのことばがありました。続いて、10年以上にわたり会員になっていただいている方々に、館長から感謝状とゴールド会員証の贈呈がありました。対象は66名で、その内4名の方は

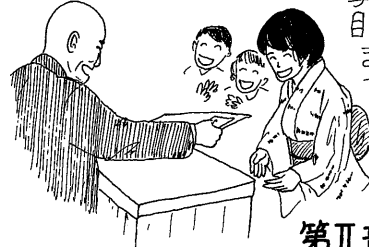
20年以上の会員です。長年にわたり友の会と博物館を支え、見守ってくださっていただけることに、心より感謝します。

次に表彰者を代表して、27年間という最長会員の夏目克己さんからお話をいただきました。夏目さんは元鳳来町長で、さらに教育長時代には博物館長でもありました。そして、町長さんの時代から今日まで、どのような立場であっても、一会員として友の会と館を見守っていただきました。続いて、10月1日に合併し、新城市となったことから、市長さん(斎藤市長職務代理)に祝辞をいただきました。

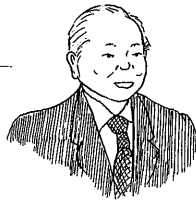
最後に学術委員主任の三津井、仲井、大平先生からお祝いのスピーチがありました。



会長あいさつ



感謝状とゴールド会員証贈呈



斎藤市長職務代理
(前作手村長)

祝 博物館友の会三十周年記念式典



夏目克己さん



三津井先生



仲井先生



大平先生

夏目さんからは、博物館建設当時から、友の会設立頃の博物館事情をエピソードを混じえて、話をさせていただきました。そして、博物館活動や友の会が活発に展開され、長年にわたって推進されているのも、学術委員の諸先生のおかげであると、感謝のことばがありました。

学習会や特別展などでいつも指導して下さる学術委員主任の先生からは、これだけの会員を持つ友の会組織は、全国的にも誇れるとのこと。野外観察会などの学習会に参加する姿勢も、子どもとおとなもとても熱心。毎回、定員を超える参加者に、いつも感心している。等、たくさんのおほめのことばをいただきました。



友の会30年史 (平成17年11月6日発行)

創設30周年を記念して編集・発行しました。友の会の歴史と活動の変遷をまとめた「あゆみ」と年表、会員の推移と

構成、最近の友の会活動の状況を、写真とイラストをふんだんに使い、目で見てわかりやすい内容にしました。B5判、24頁のカラー印刷で、式典にあわせて刊行しました。ミュージアムショップで販売をはじめました。希望される方に500円で販売しています。



第II部 懇親会

主催者を代表して友の会監事の竹之内さんのあいさつで始まり、懇親会では赤米を使って赤白もちをついたり、五平もちをにぎって、おいしくいただきました。さらに、地元産のシシ肉と野菜、野生きのこが入った「シシ&きのこ鍋」が登場し、来賓の方々も友の会員がいっしょになって楽しく語りあい、親睦を深めることができました。

クジ引き大会では鉱物ハンマーから湯のみ茶碗まで、様々な景品で盛りあがり、盛り上がりました。

友の会員916人 (平成17年11月末)

30周年をかさる過去最大の会員数になりました。

記念すべき900人目は、蒲郡の山中敦子さんでした。

来年度の目標設定が大変で、楽しみです。



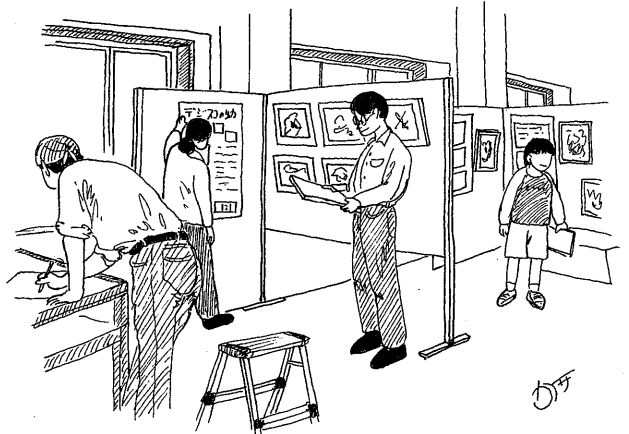
一友の会30周年記念特別展一

「みんなでつくる博物館」
(平成17年11月6日～平成18年1月9日)

友の会員による手づくりの特別展で、博物館として初の試みです。

自然に親しみより深く学ぼうとするメンバーが、それぞれの自慢のコレクションや作品を展示紹介する機会と場をつくらうと企画したものです。今回は19名の会員が出展してくれました。

- 長谷川博 デジスコの魅力
- 長谷川緑・慎 ハードカービング
- 平川 秀雄 めずらしい岩石とのであい
- 嵐 順一 中部地方の化石
- 加藤 陽司 鉱物コレクション
- 竹之内 昭夫 化石、ツリオトシゴ、ヒシ
- 深見 紀光・知子 魅惑のヒスイ
- 山本 雄飛 ぼくの自然観察路
- 丸山 潤次郎 シルクスクリーンプリント作品
- 都築 明美 モリアオカエルの研究
- 血井 信 鳳来の野鳥たち
- B部 正弘 日本の蘭
- 深田 猶人 鉱物、鉱物七手コレクション
- 鈴木 文統 鉱物、化石コレクション
- 遠山 昭人 東京町の植物(出版物)
- 高原 佑太 鉱物コレクション
- 片澤 達夫 エゾナキウサギについて



秋から冬への話題と博物館

はぴなだり No.109
2005.12

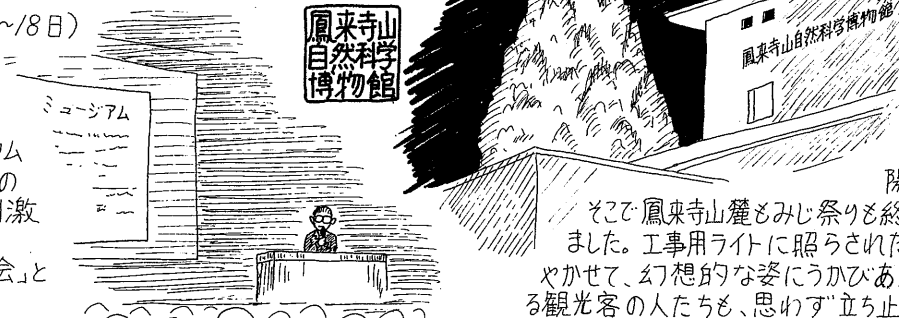
第53回全国博物館大会(平成17年11月17~18日)

横山館長と加藤(学芸員)で参加しました。大会テーマは「市民とともに創る博物館」です。

1日目は、全体会議、表彰、記念講演、シンポジウムが行なわれました。東京都写真美術館の福原館長の講演、シンポジウムでの各館の報告に、たくさんの刺激と啓発を受けました。

2日目は、パネルディスカッションで「ボランティアの会」と「地域連携」をテーマに行ないました。

鳳来寺山自然科学博物館は学芸員がパネリストで出席。当館の友の会とボランティアの活動について発表する機会を得ることができました。



日没とライトアップ(平成17年11月23日...12月25日)

冬至は北半球では、正午における太陽が最も低く、昼が最も短くなります。つまり冬至に向けて日没が早くなり夜が長くなります。博物館では、午後4時には太陽が山にかくれ、5時にはライトなしでは歩けません。

そこで鳳来寺山麓とみじ祭り終盤の頃、館の脇にそびえるメタセコイアをライトアップしてみました。工事用ライトに照らされたメタセコイアは、円錐形の整った樹形をオレンジ色に輝かせ、幻想的な姿にうかびあがりました。すっかり暗くなった参道を足早に帰ろうとする観光客の人たちも、思わず立ち止って歓声をあげていました。

「川原で鳥や生きものを観察しよう」野外学習会 (平成17年12月4日 曇りのち雨 43名参加)

布里の新城市サイクリングターミナル周辺でおこないました。

午前中は野鳥観察。ここはカワセミの楽園かと思うほど、参加者の目を楽しませてくれました。

午後は雨の中、川での水生生物調査のグループと、室内で昆虫の勉強グループに分れて実施しました。雨の降る中でしたが時間を忘れるほど、熱心にとりくみました。



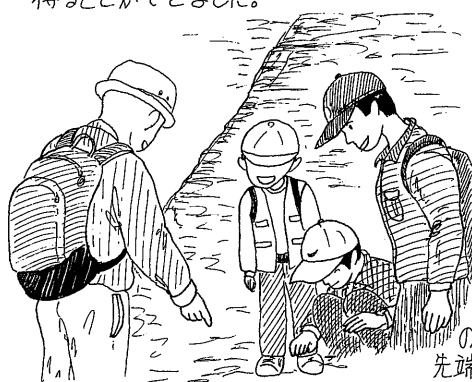
もみじ祭りイベント「博物館感謝祭」 (平成17年11月23日)

友の会と共催で、毎年開催しています。小椋会長はサンドイッチマンを買って来て、集客のために沿道へ。協力隊のメンバーは、出店と販売員。宝石かかしコーナーは、人だかりの満員で、たいへんな人気でした。来年はさらにパワーアップして、盛り上げていきたいです。

学校の博物館利用

今年は県内で大きなイベントがありました。3月25日から9月25日まで開催の愛知万博「愛・地球博」です。この影響で、期間中の学校の見学は大中に落ち込みました。しかし、秋になり、少しづつ子どもたちの声もどってきました。

先端技術の粋のロボットや映像もすばらしいですが、



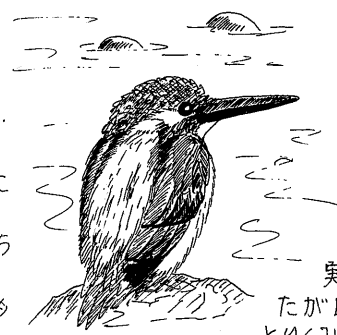
博物館で標本に角触れたり見たり、現地で植物や動物を観察し、化石をみつけることもかけがえのない体験をつむこととなります。

秋になって、次の学校が利用してくれました。

- 9月27日 東陽小学校6年生「地層と化石」
- 9月30日 豊川市千両小学校6年生「地層と化石」
- 10月12日 東郷西小学校「奥三河の自然」
- 11月4日 黄柳野小学校、鳳来寺小学校
- 11月21日 山吉田小学校「地層について」
- 11月23日 浜松市大瀬小学校「鳳来寺山の自然」
- 11月30日 舟着小学校6年生
- 12月7日 一宮町西部小学校「自然と人権」

学校の要請で館長や学芸員が出前講座や現地学習で講師をしたり、展示ガイドなどをして対応したものです。

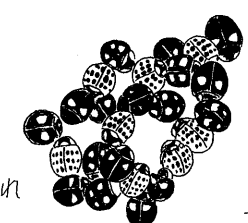
博物館ツアーもさらに力を入れたいと思います。



シギに会いました！ (平成17年10月23日 玖老勢)

きのこ展用のきのこ採集で林道を走っていると、クチバシが長く、ズンズンした体つきの鳥が草むらから現れました。

車に気づいて、すぐにかくれてしまいましたが、シギに間違いありません。鳳来でのシギ類の記録は少なく、貴重な出会いでした。しかし、ヤマシギかアオシギか、あるいは別の種のシギなのか識別できませんでした。残念！



テントウムシ乗籠 (平成17年11月27日)

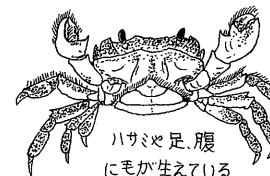
おたやかによく晴れたこの日、博物館めがけて小型飛行物体がおしよせてきました。窓にへばりついた姿をよく観察すると、テントウムシとうでした。来る厳しい寒さにそなえて、博物館を越冬地を選んだのでしょうか。

おやすみへびさん

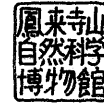
夏休み中人気だったシロマタラも冬休みです。只今、小椋家で冬眠中。

モクスガニ (平成17年11月7日)

豊川(奥狭川)の支流の巴川にかけられたヤナに変わったカニが入ったと、一色の今泉さんから連絡がありました。河口から上流へやってきて成長し、成体になると河口に降って繁殖をするカニで、これほど上流では稀です。



寒かった冬と博物館



学習会「スケッチを学ぼう」(平成18年2月5日、53人参加)

年々参加者が増えてくる学習会です。初めは友の会行事として実施しましたが、好評のため博物館行事になりました。

今年は地学が偏光顕微鏡を使った岩石薄切片の観察とスケッチ。植物は果実やコケ種子。動物は野鳥と昆虫のスケッチを専門の先生(学術委員)に教わりました。



花南君

高木典雄先生逝去 (平成18年2月1日)



昭和24年発足の「東三河の地質と鉱物の会」からお世話になり、当館の設立からは、学術委員植物部門主任として、41年間にわたって指導していただきました。昨年からは顧問の立場で尽力されました。コケ植物の権威で、ナンジモンジゴケの発見者として世界的に有名です。観察会や特別展では、やさしく、わかりやすく指導して下さい、様々な分野に精通した、真の博物学者でした。

川凍り、滝凍る (平成18年1月13日)

博物館の池の初氷は17年12月5日でした。以来、寒い日が続き、年を越しても氷点下になることかしばしばでした。通勤途中の寒狭川(豊川)の布里ダムは全面結氷でした。海老川売にある手右衛門の滝と、さらにその奥の棚山の犬島の滝は、流れ落ちる水が、すべて凍りついてしまいました。

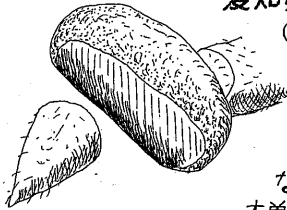
みことな景観を、学術委員の水谷先生が写真撮影。講堂で開催中の「みんなでつくる博物館」展に掲示しました。



大島の滝

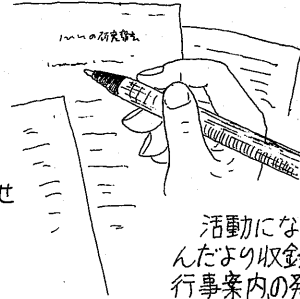
手右衛門の滝

愛知県博物館協会自然科学部門研修 (平成18年2月17日、岐阜県鷺沼)



名古屋大学博物館が一般向けプログラムとして企画した「石器づくり～史上最大の生物絶滅事件に思いをはせながら」を体験実習しました。

木曾川の層状チャートの露頭において、生物の大量絶滅があった2億4500万年前の、古生代と中生代の境界といわれる露頭を観察しました。ついで、河原の石を採集してみがき、磨製石器づくりをしました。当館でも応用可能な有意義な研修でした。

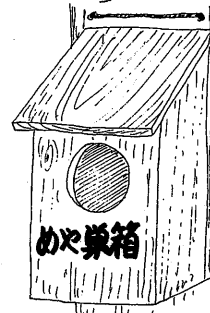


冬の重要な仕事

博物館の大切な事業のひとつに執筆、出版活動があります。静かに仕事ができる冬は、出版物の執筆、編集作業に重点をおいた活動になります。現在、「館報35号」はくぶつかなだより収録録集2、「つし山No.11」、「平成18年度行事案内」の発行に向けて取り組んでいます。

議員さんの視察 (平成18年1月8日)

新生・新城市の議会議員の方が視察にみえました。浅井(元)、白井(倫)、丸山(隆)、山本(-)議員の4名です。展示コーナーの他に、動物標本庫や植物標本庫など、博物館のバックヤードも案内しました。館の活動や実態を知ってもらう、よい機会になりました。



館内の巣箱の中身

ロビーと展望室には巣箱がかけてあります。アンケート回収用の箱で「めや巣箱」といいます。展示、施設、職員の対応などについて、感じたことをアンケート用紙に記入して巣箱に入れてもらいます。

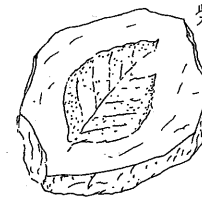
改修工事後は、よい評価をいただけるようになりましたが、この時期になると、空調設備がないため「寒かった」「暖房入れて」の声が多くなります。

博物館運営審議会(平成18年2月22日)

この日、新市となって初の運営審議会が開催されました。18年度事業の館の運営体制について、きびしいご意見をいただきました。博物館活動が停滞しないよう、全力でがんばらなければいけません。

新城東高校 本郷校舎資料受領

東栄町の日本郷高校の標本室には、地元を中心にした資料が収蔵されています。特に地学関係の標本が多数あります。閉校に向けて、貴重な資料類を当館でゆずり受けることになりました。



柴石峠産化石
(現在採集禁止)

年末大そうじ大会 (平成17年12月25日/2名)

博物館協力隊(友の会ボランティアアグループ)と大そうじを行いました。中学生の服部君、伴君は豊橋から電車とバスを乗りついで、かけつけてくれました。東郷東小の山本君もお父さんと参加。寒い館内や外のガラスふき、落ち葉の片づけなどを行いました。お昼の休憩時に、落ち葉と枯れ枝を利用してつくった焼きそばと天然きのこ入りのシシなべの味は格別でした。



理科授業の地層学習 (平成18年2月9日)

鳳来西小学校5年生が理科の地層の学習で、博物館を利用してくれました。

館長が展示や本物の標本を使って、地層や化石の説明。続いて、実際に近くの露頭に出かけ、地層の観察と化石の採集をしました。現地の実物に勝る教材はありません。

